

【目的】末梢血管インターベンション術中におけるカテーテル治療室内での治療効果およびエンドポイントを決める指標は、血管内超音波や血管造影による評価であり、客観的評価を行うことができていないのが現状である。今回、レーザー血流計を用いて、末梢血管インターベンション術中に血流量をリアルタイムで計測することにより治療効果およびエンドポイントを決める客観的評価として用いことができるか検討した。

【方法】レーザー血流計CDF-2000（ネクシス社製）を使用し、治療開始前よりセンサープローブを足底部、足背部の2点に貼り、治療終了までの血流量（ml/min/100g）を計測した。測定原理は皮膚表面から深さ3mm程度の血流をレーザー光の反射におけるドプラーシフトを用いることで測定を行なっている。

【結果】膝窩動脈以下のインターベンションの場合、治療前後で有意に血流量の上昇が得られた。浅大腿動脈および腓骨動脈領域のインターベンションでは血流量の上昇に個人差が見られた。

【総括】足底部、足背部の血流量には個人差があり、治療のエンドポイントを決定づける絶対値は不明である。しかし治療前から治療後まで血流量を連続的に計測することにより、血流量の変化をリアルタイムで確認できるため治療効果の指標のひとつとして有用である。また、膝窩動脈以下の閉塞性症例に対しては血流量の上昇が得られなければ治療の追加を行なうなどエンドポイントを決める指標として有用であると考えられる。

評価1	評価2		評価3		採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション		会場		時 分～ 時 分

受付番号

演題番号